研修会内容(平成29年度)

Oプログラム

開催自治体:新潟県柏崎市

参加者数

【1日目】25団体 40名

【2日目】24団体 37名 柏崎市民 50名



一7月18日 1日目(会員研修) かしわざき市民活動センターまちから 一

●会員研修

【講演】 講演①「平成28年熊本地震について」

熊本県宇城市教育委員会教育総務課 課長 蔵原 正敏 氏

講演②「仙台市の生活再建支援の取組み

~応急仮設住宅の解消に向けて~」

宮城県仙台市 健康福祉局 地域福祉部 被災者生活支援室主幹兼生活支援係 係長 高橋 貞人 氏

【ディスカッション・質疑応答】

コーディネーター 常葉大学大学院環境防災研究科 教授 田中 聡 氏

- 7月19日 2日目(公開プログラム) 柏崎市産業文化会館 -

●公開プログラム ~テーマ「被災地からの発信ー創造的復興に向けてー」~

【基調講演】「創造的復興に向けての東北の歩み」

東北大学災害科学国際研究所 助教 佐藤 翔輔 氏

【パネルディスカッション】

パネリスト 石川県輪島市 総務部長

ゆりあげかもめ会長 佐竹 悦子 氏 かしわざき音楽商店街代表 石川眞理子 氏

コーディネーター 常葉大学大学院環境防災研究科 教授

重川希志依 氏

宮坂 雅之 氏



丸山会長(ネットワークおぢや)



櫻井柏崎市長(開催自治体)

会員研修



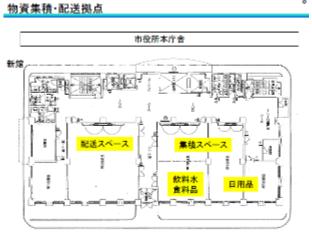
講演①「平成28年熊本地震について」

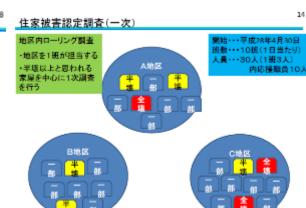
熊本県宇城市教育委員会教育総務課 課長 蔵原 正敏 氏

まだ震災から1年ほどしか経過していないこともあり、 震災当時の初動対応、避難所運営、仮設住宅等で苦難 されたこと、また、これからの復興に向けて準備されてい ることについてお話しいただきました。









会員研修

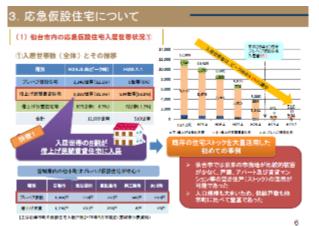


講演②「仙台市の生活再建支援の取組み ~ 応急仮設住宅の解消に向けて~ 」

宮城県仙台市 健康福祉局 地域福祉部 被災者生活支援室主幹兼生活支援係長 高橋 貞人 氏

東日本大震災から6年経過したところで仮設住宅が0件となり、それも円満に仮設を解消されたということで、仮設住宅入居世帯への生活再建支援の取組みと心得についてお話しいただきました。







6 仮設期限終盤の対応について

(4) 生活再建始資富の商品による対応

- ◆生活再建支援員や信別支援班で対応しきれないケースや特に困難な案件に ついては、生活再建推進室職員が直接対応した。
- ◆ これまで機器等が把握できていた世帯は、個別支援等による早期の対応により多くの方が網膜までに再発を単たしたが、接触相差が少なく課題が抵援できていなかった世帯や前限地音世帯の中に対応困難事例が多く見られた。

主な職員対応となったケース

- ① 日中不在世帯への夜間訪問
- ② 訪問しても不在漢を按照しても反応が無いせ等への様り込み
- ② 事業をしての大きょの様性(なんなみ)
- ② 職場への動間
- (5) 親族等への連絡、支採協力の依頼
- ⑤ 超ハードクレーマーへの対応





会員研修

ネットワークあぢや

【ディスカッション・質疑応答】

「平成28年熊本地震について」 「仙台市の生活再建支援の取組み~応急仮設住宅の解消に向けて~」

■パネリスト

熊本県宇城市 教育委員会 教育総務課 課長 蔵原 正敏 氏宫城県仙台市 健康福祉局 被災者生活支援室 主幹

兼 生活支援係 係長 高橋 貞人 氏

■コーディネーター 常葉大学大学院 環境防災研究科

教授 田中 聡 氏

左から 仙台市 高橋氏 宇城市 蔵原氏 常葉大学 田中氏



前段で講演していただいた内容はどの自治体でも懸念されているところであり、聴講された会員の方々より、課題や解決策について活発な議論が交わされました。

公開プログラム



テーマ「被災地からの発信 一創造的復興に向けて一」

基調講演「創造的復興に向けての東北の歩み」

東北大学 災害科学国際研究所 助教 佐藤 翔輔 氏

「創造的復興」の概念、宮城県で行われている復興活動の数々、また震災から6年が経った 現状についてお話しされ、ディスカッションに向けて問題提起をしていただきました。







公開プログラム

テーマ「被災地からの発信 一創造的復興に向けて一」



【パネルディスカッション】



■パネリスト

<u>石川県輪島市 総務部長 宮坂 雅之 氏</u>

平成19年に発生した能登半島地震最大の被災地となった輪島市で、市役所財政課長として 災害対応に当たる。

「防災にしても地域の振興にしても、やっぱり最終的には人づくりではないでしょうか。」



ゆりあげかもめ 会長 佐竹 悦子 氏

宮城県名取市の閖上(ゆりあげ)で防災教育の市民団体を運営。

「命を守るための知恵とか、工夫を知らせる、そんな活動も教訓としての伝承ではないかと考えています。」



かしわざき音楽商店街 代表 石川 眞理子 氏

平成19年に発生した中越沖地震以来、毎年音楽イベント「音市場」を開催。

「震災前までやってきたことを普通にやり続ける、そのための環境を整えるような支援をしたいという思いで活動しています。」

公開プログラム

テーマ「被災地からの発信 一創造的復興に向けて一」







■コーディネーター 常葉大学大学院 環境防災研究科 教授 重川 希志依 氏



商業復興、まちづくり、人づくりという視点で、創造的復興のためにそれぞれ何をしているかお話しいただきました。市民の方も数多くご参加いただき熱心に聴講されていました。